2018信州総文祭 新聞部門プレ大会　新聞で伝えたいことがある

信州なび助通信
2018 信州総文祭 プレ大会開会式 特別号
制作発行
長野県高文連 新聞専門部

平成29年度
長野県高等学校新聞コンクール

長野高校が最優秀賞

優秀賞は屋代と軽井沢

「新聞活動を通して高校生の新聞制作技能の向上とともに、情報を読み解く力や発信する力の伸長を図る」ことを目的に今年度から始まった県高校新聞コンクール。10月14日、県高校新聞フェスティバルの開会式で発表と表彰が行われた。

コンクールは、８月末までの１年間に発行された新聞が対象。３名の審査員が読み手の立場、記事の話題性、作り手の姿勢など５つの観点で審査を行った。審査の総合評価から各賞が決定し、長野県高文連会長の根橋悦子先生（長野西高校長）から表彰状が授与された。審査員代表の宮坂博昭・信濃毎日新聞読者センター長は全体講評で「５Ｗ１Ｈを意識し、もっと人を取材してほしい」と話した。

最優秀賞の表彰を受ける長野高校新聞部

最優秀賞・優勝賞以外の結果は以下の通り。優良賞：長野日大・上田、奨励賞：飯山・上田西・松本県ヶ丘

会場２階の会議室で班毎に交流新聞を制作

小布施の街中で地元住民や観光客に取材

締切時刻を気にしながら紙面の編集が続く

信州総文祭新聞部門プレ大会
長野県高校新聞フェスティバル
長野市若里市民文化ホールで行われる

新聞専門部は10月14、15日、第12回長野県高校新聞フェスティバルを来年８月の信州総文祭新聞部門と同じ会場で開催した。参加生徒たちは、小布施の取材と交流新聞制作に取り組んだ。

会場の長野市若里市民文化ホールには、新聞専門部加盟校から生徒25名が集った。開会式では原良通部会長（長野高校長）の挨拶に続き、県高校新聞コンクールの審査結果が発表された。今回は信州総文祭新聞部門のリハーサルを兼ね、時折進行を止めて確認するゲネプロとなった。

生徒は３班に分かれ、来年の取材コースの一つ小布施町に向かった。桜井甘精堂の桜井昌季社長から小布施の文化や産業、まちづくりについて話を聞いた後、班ごとに町の中心部を取材した。会場に戻ると各班は交流新聞の制作に取り組んだ。取材から記事執筆、効果的な写真選び、読みやすい紙面レイアウト。互いに知恵を出し合い、翌15日昼に紙面を完成させた。午後は交流新聞の講評と閉会式が行われて、フェスティバルは終了した。

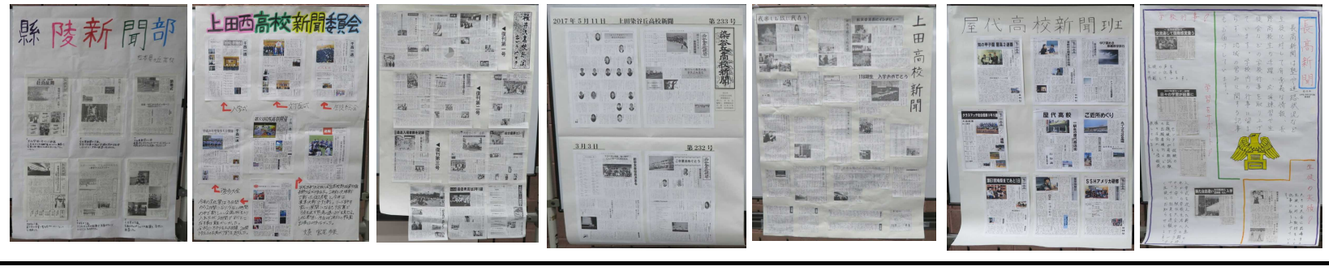
交流新聞

小布施を街中取材

班毎に手作り新聞を制作

「小布施の街中の雰囲気を体感し、取材もできて楽しかった」「幅広い層への取材でネタに対する相違点を明らかにしながら記事を書くことができた」「編集会議では初対面でも活発に意見を交わせ、学ぶことが多かった」「47年に一度の全国総文祭に積極的に関わっていきたい」（参加生徒の感想）

新聞交流展



第42回全国高等学校総合文化祭
2018信州総文祭
みすずかる信濃に若木は麗しい森を育める　山脈渡る風に種子を託げて